

平成29年度 第1回横須賀市保健医療対策協議会議事録

1 開催日時 平成29年11月2日（木） 14時00分～15時30分

2 開催場所 横須賀市役所本館3号館 5階 正庁

3 出席者【委員】

伊藤学、遠藤千洋、嘉山静子、木村麻美子、澄川貞介、張学金、
中島正七、平嶺春美、松本好史、宮田和彦（敬称略、五十音順）

【事務局】

惣田 晃 : 健康部長
小林利彰 : 保健所長
梅澤徳之 : 健康総務課長
夏目真一 : 保健所健康づくり課長
葛貫博之 : 保健所生涯現役推進担当課長
石川智美 : 保健所生活衛生課長
広瀬量一 : 健康総務課総務係長
蛭田 匠 : 健康総務課
角田幸代 : 保健所健康づくり課健康づくり推進係長
田辺久美子 : 保健所健康づくり課主任

4 開 会

事務局（健康総務課長）が司会となり開会した。

- ・ 資料の確認
- ・ 健康部長挨拶
- ・ 一般傍聴報告にて、一般傍聴者なしの旨を報告した。
- ・ 委員の紹介
- ・ 事務局の紹介
- ・ 出席委員数の確認にて、半数以上の出席により、会議が成立している旨を報告した。

5 委員長及び委員長職務代理者の選出

保健医療対策協議会条例第3条の規定により、宮田委員の提案で遠藤委員が委員長に就任した。引き続き保健医療対策協議会条例第3条第3項の規定により、遠藤委員長が嘉山委員を委員長職務代理者に指名した。

6 議 事

保健医療対策協議会条例第3条第2項の規定により、委員長が議長となり会議を進行した。

(1) 横須賀市健康増進計画・横須賀市食育推進計画の中間評価及び改定計画について

事務局（保健所生涯現役推進担当課長）が資料3-1、3-2に基づき、中間評価、現計画の概要、計画の中間評価・改定方法、策定スケジュール案等の説明を行った。引き続き、資料3-3に基づき中間評価及び改定計画案の説明を行った。

質疑応答

【委員】

資料3-3の22頁で、中間評価のうち、栄養・食生活の状況がよくない。重要な項目と思うが、これに対しての改定計画の取り組みが弱いと感じる。重点的に取り組み、改善した方がよいと思うが、いかがか。

【事務局】

資料70、71頁に記載のとおり、市民の、特に無関心層に健康づくりの意識を持ってもらう必要があるのだろうということで、働き盛り世代へのアプローチ、様々な機関と連携、工夫して効果的に、そして幅広い情報発信にするという意識で働きかけをしたい。新規でなにかやるのではなく、従来の取り組みを積極的に進めていきたい。

【委員】

資料3-3の22頁で、アンケートの回答者は本人か、他者か。

【事務局】

資料29頁の表のなかで、上から2行は衛生統計を、以下4つの項目は国民健康保険加入者に関する調査に基づいている。

併せて35頁、栄養と食生活の表は、アンケート調査を集計したものである。

【委員】

栄養と食生活はアンケートで対象者本人の回答を集計していて、循環器疾患・糖尿病は統計上の結果ということで承知した。

計画の中間評価及び改定については、パブリック・コメントののち、第4回横須賀市健康増進計画・食育推進計画専門部会で検討し、市長への答申は委員長に一任し、本協議会を開催しないこととした。

7 報告事項

- (1) 平成29年度横須賀市健康増進計画・食育推進計画専門部会の報告について
事務局（生涯現役推進担当課長）が資料4に基づき報告を行った。
- (2) 横須賀市自殺対策計画の策定について
事務局（保健所健康づくり課長）が資料5に基づいて報告した。
- (3) 骨髄移植ドナー支援事業助成金制度の開始について
事務局（保健所長）が資料6に基づいて報告した。
- (4) 地域猫活動啓発推進事業について
事務局（保健所生活衛生課長）が資料7に基づいて報告した。

8 質疑応答

- ・横須賀市自殺対策計画の策定について

【委員】

これは全国の自治体でやろうということか。

【事務局】

そのとおり。

【委員】

「一人ひとりがかけがえのない個人として尊重され、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指し、とあるが、これについても共通の認識で進めるということか。

【事務局】

そのとおり。これは自殺総合対策大綱の基本理念に掲げられている。

【委員】

だれも自殺に追い込まれることのない社会とある。これは理想ではあるが、なかなか難しいことだと思う。これは個人的な意見として申し上げる。

また、「社会」とあるが、これは学校は関係あるのか。

【事務局】

関係はある。「だれも自殺に追い込まれることのない」とあるが、自殺に追い込まれそうな方を一人でも多く救いたいという思いである。

【委員】

毎日のように人身事故が起きている。現場の声をくみ上げることが大事だと思う。学校という話もあったが、子供は親に言わず、親はなかなか気付けない。地域ぐるみで心の通った対策をしてほしい

【事務局】

意見のあった旨、計画策定委員に伝える。

【委員】

ゲートキーパーを増やす予定はあるか。

【事務局】

増やしていきたいと考えている。

・地域猫活動啓発推進事業について

【委員】

不妊手術は自己責任であるが、費用について市から助成はあるのか。

【事務局】

市からは飼い猫については補助制度があり、今までは飼い猫のみが対象だった。それでは餌をあげられて増えた猫の管理がされず、周りの方が糞をされて困るといような相談がかなり多く寄せられていた。ただ、保健所では直接の対応ができないため、地域としてグループを作ったものについては動物愛護センターにて、無料で不妊手術を受けることができる一歩踏み込んだものである。

最終的には餌をあげるからには、トイレや避妊手術など責任を持つという思想が皆さんに浸透してほしいという思いがある。

【委員】

これは地域猫活動団体登録をしないと補助対象にはならないのか

【事務局】

そのとおり。団体の代表者を決めてもらう必要がある。その他に、町内会・地域の方、猫に餌をあげている方、困っている方の三者のコンセンサスが得られて初めて不妊手術ができる。

【委員】

身近に困っている人はいるのだが、餌をあげている方の理解も得られないといけな
いのか。

【事務局】

そのとおり。今までは困っている方からの相談を受け、指導を行っていたが上手く
いかなかった。餌をあげている方も周りの目が気になっているということがある。
その方に手を差し伸べるような手法である。

【委員】

その方も取り込んで一緒に申請するということで承知した。

10 閉会

事務局から連絡事項を伝達し、司会の健康総務課長が会議を閉会した。

※この議事録は、委員等の発言を事務局において要点筆記したものです。